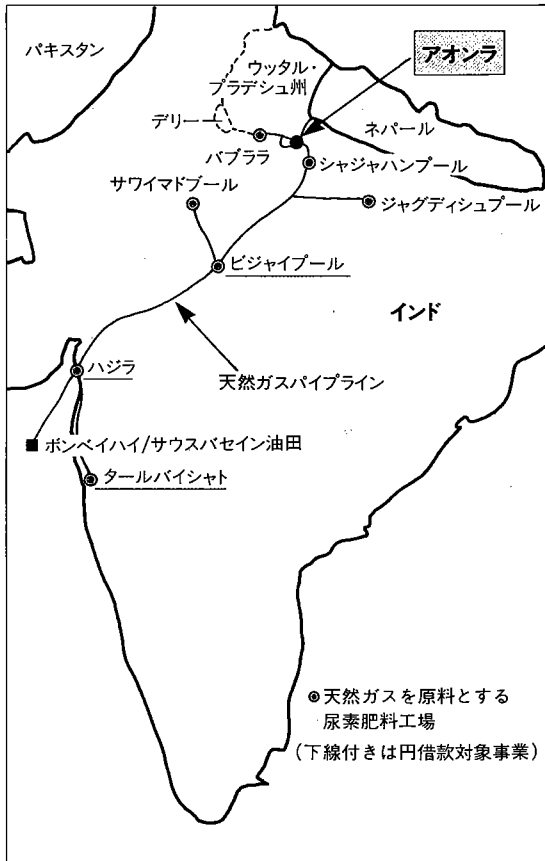


アオンラ肥料工場建設事業(I)(II)(III)

インド

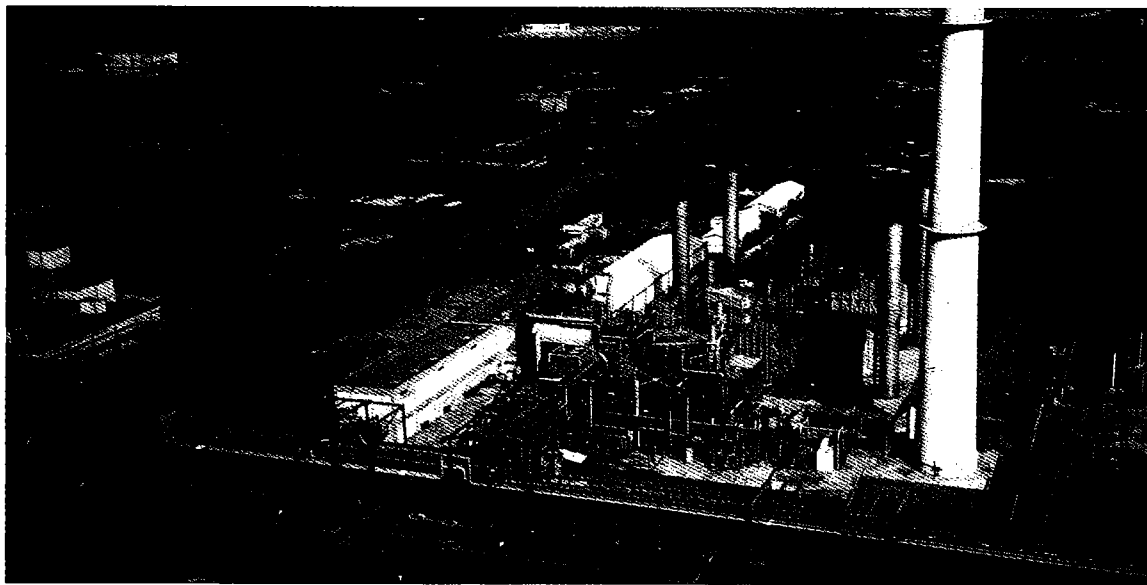


■事業概要

	借款契約締結年月	借款金額
アオンラ肥料工場建設事業(I)	1984年12月	81億9,500万円
アオンラ肥料工場建設事業(II)	1985年11月	95億0,000万円
アオンラ肥料工場建設事業(III)	1986年12月	58億3,900万円

膨大な人口を抱えるインドにとって、食糧の安定供給は重要な問題です。また、総就労人口の約7割が農業部門に従事し、農業部門の生産がGDPの約3割(1985年時点)を占めていることから、農業が同国の経済に対して非常に大きな役割を果たしていることが判ります。

インドでは1960年代中頃に直面した食糧危機を契機として、食糧の増産を図るための政策を推進してきています。そして、その食糧の増産・安定供給には欠かすことの出来ない肥料については、生産量が拡大してきている一方、消費量も増大し、引き続き輸入に依存せざるを得ない状況であった



▲スチームプラント全景

▼この中央制御室で工場全体の操業をコントロールしています。



ため、1980年度にスタートした第6次5ヵ年計画では、肥料工場建設のため大規模な設備投資計画が立てられました。これは1977年にボンベイ沖で発見された天然ガスを原料とする大規模なアンモニア／尿素製造工場を8カ所に建設するものであり、本事業はその建設計画の一環としてインド北部のウッタルプラデシュ州バレイリ地区アオンラに年産72万6千トンの尿素肥料工場を建設するものです。なお、本事業に対してOECFはアンモニア及び尿素製造プラント建設に必要とされる資金の一部を供与しましたが、OECF以外にも世銀融資やデンマーク等からの借款も導入されています。

実施機関であるIFFCO(インド農民肥料組合公社)を始めとする関係者の優れた実施能力により、建設工事は順調に進められ、1988年7月に商業運転が開始されました。なお、このような大規模なプロジェクトを概ね計画通りに完成させたことから、IFFCOはインド政府から優良プロジェクト第2位の表彰を受けています。

■運用状況と効果

(1)肥料需要への対応

インド全体の肥料需要は依然として増加傾向にあり需給ギャップが解消していないこともあって、商業運転開始以降アオンラ工場は当初の計画を上回るペースで稼働されており良好な生産実績をあげています。そしてアオンラ工場の生産設備能力は全インドにおける窒素肥料生産能力の約4%を占めており、実際の生産量も毎年全インドの約6%を生産していることを考えると、本事業は増大する肥料需要への対応策として、非常に大きな貢献をしていると言えます。また、アオンラ工場が新設工場であることから、その生産量は、そのまま輸入削減量と見なすことができます。この輸入削減額は総額にして約5億ドルと試算され、本事業は輸入依存度の軽減、それに伴う外貨節約にも寄与していると言えます。

(2)間接的效果

また、本事業を実施したことによって以下のような間接的な効果も認められています。

アオンラ肥料工場建設事業(Ⅰ)(Ⅱ)(Ⅲ)

①技術移転効果

実施機関であるIFFCOは積極的にこの事業に取り組み、設計段階からコンサルタントと協議を重ね、建設段階では従業員を海外の同種工場への視察研修に派遣したり、トレーニング・シミュレーターによる運転・維持管理に係わる訓練を実施しました。IFFCOによれば、このようにして早い段階から最新の技術を習得することを心掛けたことが、完成後現在に至るまで良好な運転状況を維持している大きな要因であるとしています。

②雇用創出と地域住民の所得増加

工場のあるアオンラ地区は、農業生産にも適さず、住宅環境も整備されていなかったため、もともと人があまり住んでいませんでした。しかし、本事業の実施によって近郊地区から建設作業員が集まり、それに伴って野菜等の市場が立ち賑わうようになりました。アオンラ工場では現在、季節従業員を加えると、約1,000人が働いており、その家族を含めると約4,000人が新たにこの地区で生活を営んでいます。このようにして新たに形成され

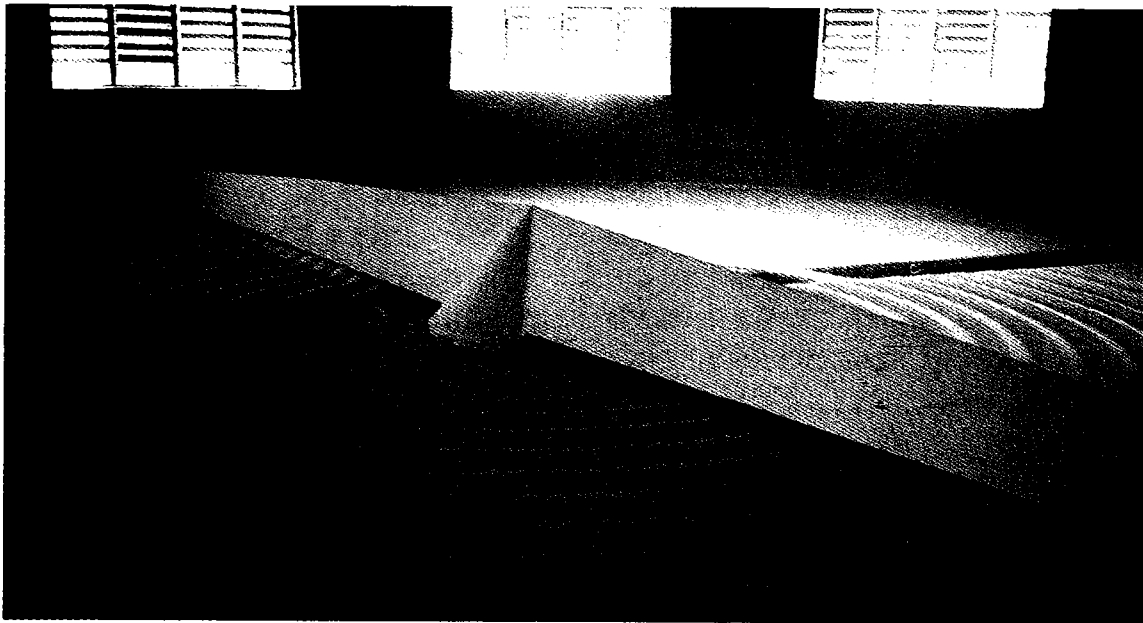
た市場が近郊地区に与えている経済効果は、IFFCOの試算によると月額約2百万ルピー(約12百万円)になるとされています。

③地域社会への貢献

IFFCOは、従業員の福利厚生の一環として、工場から半径5 km以内の村を対象にした各種インフラの整備、市民教育等を実施しています。更に、主として従業員の子弟教育を目的として設立した幼稚園、小・中学校では、広く周辺地域の子供も受入れる等、地域社会に大きく貢献しています。

このようなIFFCOの経営方針は、アオンラ工場以外に保有する他の3つの工場にも共通するものであり、1989年には地域社会への多大なる貢献をしたとしてインド商工会議所から表彰を受けています。

(評価時期：1992年11月)



▲生産された尿素肥料